

すべての学生に「挑戦」の機会を

ドラゴン桜財団設立、地方から東大目指す中高生応援

学力は問わない、意欲さえあればOK——。地方から東京大学合格を目指す中高生を奨学金などで応援する取り組みがスタートした。東大合格を目指す受験漫画「ドラゴン桜」の作者・三田紀房さんが4月21日に都内で会見を開き、一般財団法人「ドラゴン桜財団」を設立したと発表した。経済格差や地域格差の只中にある中高生を対象に、年間30〜60万円の奨学金を給付するほか、有名講師陣による月1回のオンライン授業などを提供する



「ドラゴン桜財団」設立を発表した(左から)財団理事で編集者の佐渡島さん、漫画家の三田さん、西岡代表理事

る。現役東大生との座談会も用意した。文部科学省の学校基本調査によると、地方と都市部では大学進学率に大きな差がある(東京の進学率73%に対し、沖縄は46%)。東大においても、合格者に占める非関東圏出身者の割合は過去20年で14.3ポイントも減少している(52.6%↓38.3%)。財団の代表理事で、偏差値35から東大合格を果たした西岡壱誠さんは「全ての学生に挑戦の機会を提供したい」と強調。東大受験という高い壁に挑戦するプロセスが、学生に人間の成長を促すとし、「KPIは合格者数ではなく、地方からの挑戦者の増加」だった。初年度の募集は4月28日に終了したが、来年度以降も募集を続け、最終的には年間100名規模の支援を目指す考えだ。

「ドラゴン桜」とは？

- 漫画家・三田紀房氏による漫画
- 講談社「モーニング」にて2003～2007年連載
- 廃校寸前の龍山高等学校に乗り込んだ弁護士・桜木建二が偏差値30台の生徒を東大合格へ導く物語
- 「頭が悪いわけじゃない。やり方が悪いだけだ」との信念で、正しい勉強法や思考法を徹底指導
- TBSでドラマ化され社会現象に